

浅口市
コミュニティ代表者
アンケート報告書

平成27年9月

1. 調査の目的

○「浅口市人口ビジョン」及び「浅口市総合戦略」の策定に当たり、市内の地域コミュニティ代表者の方を対象に、コミュニティの問題・課題、活性化への取組、また人口減少に対応するための今後のまちづくりについてのニーズを把握し、策定の基礎資料とするために実施したものです。

2. 実施概要

- 1) 調査対象 : 地域コミュニティ代表者
金光地域 12 名、鴨方地域 79 名、寄島地域 17 名
- 2) 調査実施時期 : 平成 27 年 7 月～8 月
- 3) 配布・回収 : 郵送にて配布・回収

3. 配布回収状況

	住民アンケート
配布数	108 票
回収票	71 票
内有効回答票	71 票

4. 本報告書の見方

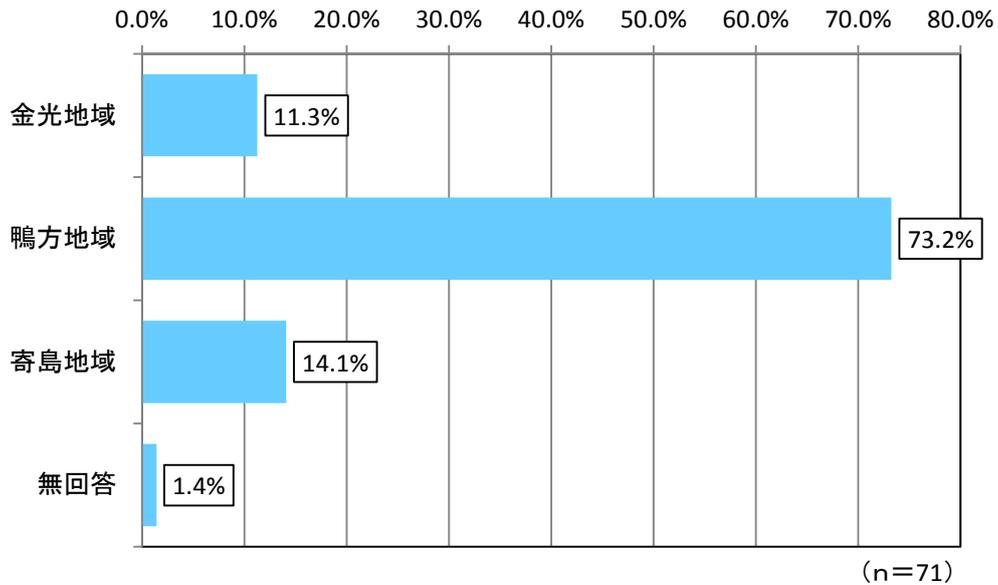
- 各設問のカテゴリー（選択肢）等について、その意味を損なわない程度に表現を簡略化している場合があります。
- （SA）は単数回答、（MA）は複数回答、（FA）は自由記述となっています。
- 集計結果のグラフや表における“無回答”とは、当該設問への回答なしの他、回答規則違反（例えば、単数回答の設問における複数回答等）の件数（票数）を示しています。
- 四捨五入により、合計値が必ずしも 100.0%にならない場合があります。

5. アンケート調査結果

1. コミュニティ組織（町内会等）の概要

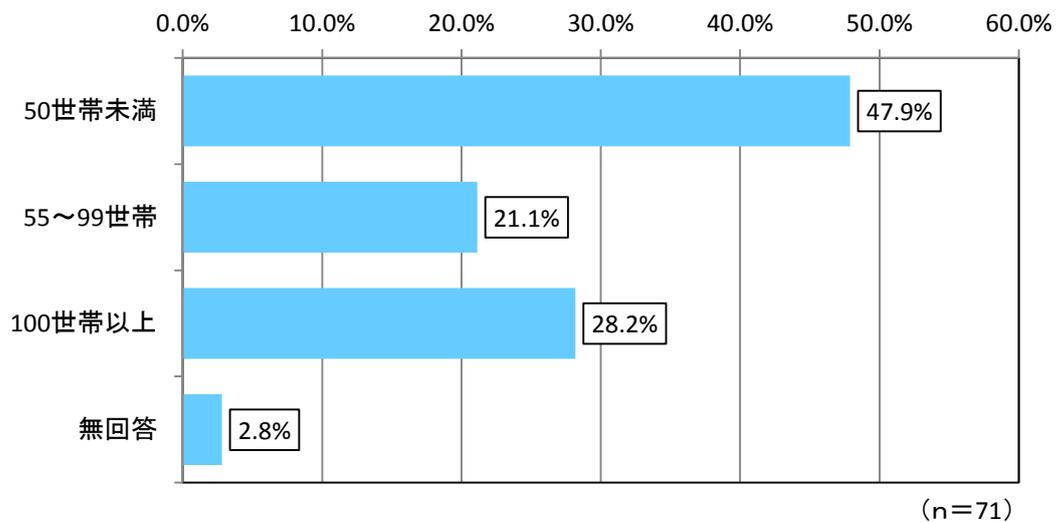
(1) 該当地域（SA）

○「鴨方地域」が73.2%と、全体の7割を占めています。



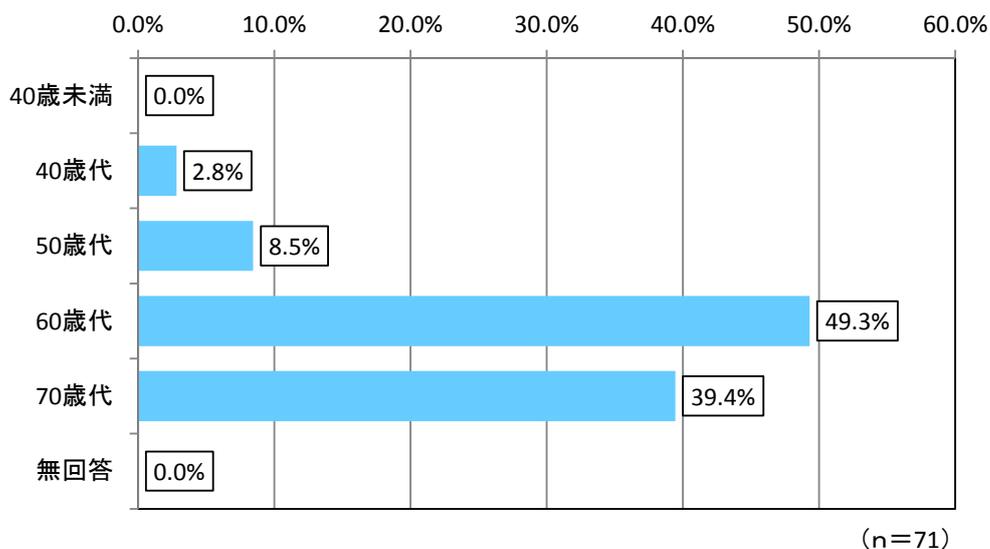
(2) 構成世帯数（SA）

○「50世帯未満」の地域が47.9%と半数近くになっています。



(3) 代表者の年齢 (SA)

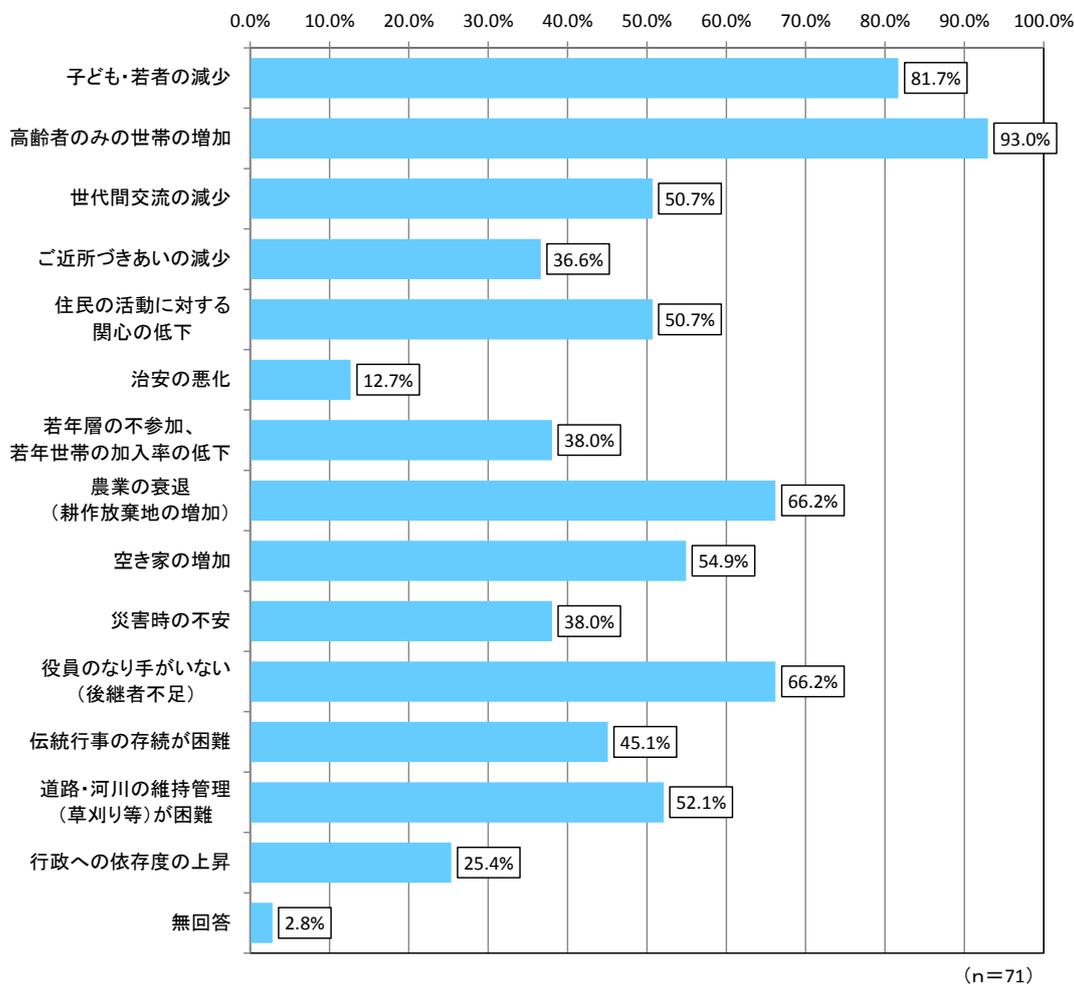
○「60歳代」「70歳代」合わせた『60歳以上』が88.7%を占めています。



2. コミュニティの活性化について

①-1 コミュニティの現在の問題・課題 (MA)

○「高齢者のみの世帯の増加」が93.0%と最も多く、次いで「子ども・若者の減少」が81.7%、「農業の衰退（耕作放棄地の増加）」「役員のなり手がいない（後継者不足）」がそれぞれ66.2%となっています。



		合計	問2コミュニティの現在の問題・課題							
			子ども・若者の減少	高齢者の世帯の増加	世代間交流の減少	ご近所づきあいの減少	住民の活動に対する関心の低下	治安の悪化	若年層の不参加、若年世帯の加入率の低下	農業の衰退（耕作放棄地の増加）
全体		71 100.0	58 81.7	66 93.0	36 50.7	26 36.6	36 50.7	9 12.7	27 38.0	47 66.2
該当地域	金光地域	8 100.0	7 87.5	8 100.0	5 62.5	5 62.5	7 87.5	1 12.5	6 75.0	6 75.0
	鴨方地域	52 100.0	42 80.8	48 92.3	24 46.2	15 28.8	23 44.2	5 9.6	14 26.9	33 63.5
	寄島地域	10 100.0	8 80.0	9 90.0	6 60.0	5 50.0	5 50.0	2 20.0	6 60.0	7 70.0
構成世帯数	50世帯未満	34 100.0	26 76.5	30 88.2	14 41.2	9 26.5	16 47.1	4 11.8	9 26.5	20 58.8
	55～99世帯	15 100.0	13 86.7	15 100.0	6 40.0	5 33.3	4 26.7	1 6.7	6 40.0	12 80.0
	100世帯以上	20 100.0	17 85.0	19 95.0	14 70.0	10 50.0	14 70.0	2 10.0	10 50.0	13 65.0
代表者の年齢	40歳未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	6 100.0	6 100.0	6 100.0	3 50.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	2 33.3	2 33.3
	60歳代	35 100.0	29 82.9	31 88.6	17 48.6	13 37.1	19 54.3	3 8.6	12 34.3	26 74.3
	70歳代	28 100.0	23 82.1	27 96.4	16 57.1	11 39.3	15 53.6	5 17.9	13 46.4	19 67.9

		合計	問2コミュニティの現在の問題・課題						無回答
			空き家の増加	災害時の不安	役員のなりがいない（後継者不足）	伝統行事の存続が困難	道路・河川の維持管理（草刈り等）が困難	行政への依存度の上昇	
全体		71 100.0	39 54.9	27 38.0	47 66.2	32 45.1	37 52.1	18 25.4	2 2.8
該当地域	金光地域	8 100.0	6 75.0	2 25.0	8 100.0	3 37.5	5 62.5	2 25.0	0 0.0
	鴨方地域	52 100.0	25 48.1	18 34.6	30 57.7	19 36.5	26 50.0	10 19.2	1 1.9
	寄島地域	10 100.0	7 70.0	6 60.0	8 80.0	9 90.0	5 50.0	5 50.0	1 10.0
構成世帯数	50世帯未満	34 100.0	14 41.2	11 32.4	20 58.8	14 41.2	16 47.1	4 11.8	2 5.9
	55～99世帯	15 100.0	10 66.7	5 33.3	8 53.3	7 46.7	8 53.3	4 26.7	0 0.0
	100世帯以上	20 100.0	13 65.0	9 45.0	17 85.0	9 45.0	11 55.0	8 40.0	0 0.0
代表者の年齢	40歳未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40歳代	2 100.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	50歳代	6 100.0	2 33.3	1 16.7	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0
	60歳代	35 100.0	21 60.0	16 45.7	23 65.7	15 42.9	19 54.3	8 22.9	2 5.7
	70歳代	28 100.0	16 57.1	9 32.1	19 67.9	13 46.4	16 57.1	10 35.7	0 0.0

①-2 そのほかのコミュニティにおける問題・課題（F A）

○44人（62.0%）から71件の意見がありました。

○『町内会・自治会の行事について』の意見が多く、特に「行事・活動の参加者が少ない」「行事・活動の減少・縮小」「若い人が行事・活動に参加しない」が問題・課題となっています。

分類	内容	件数
町内会・自治会の運営について	役員の継続者不足	4
	コミュニティに関心がない	3
	町内会・自治会に参加しない人が増加	2
	その他	2
	計	11
町内会・自治会の行事について	行事・活動の参加者が少ない	9
	行事・活動の減少・縮小	8
	若い人が行事・活動に参加しない	7
	市民体育祭への参加が困難	3
	その他	2
	計	29
仕事について	地域に働く人が少ない	2
	耕作放棄地の増加	1
	若者、息子等に農業を教えていない	1
	その他	2
	計	6
コミュニケーションについて	若年層との意思疎通が必要	2
	地区民が助け合える仕組みづくりが必要	2
	組合員が話し合う場が少ない	1
	その他	2
	計	7
その他	子どもが少ない・いない(子ども会がない)	4
	新しい家が増加しない	2
	若い世代が都会へと流出する	2
	若い人に独身者が多い	1
	その他	9
	計	18
合 計		71

<町内会・自治会の運営について>

- ・ 継続者不足
- ・ 毎年交代する連絡委員のなり手が次第に減少しています。
- ・ 役員のなり手がない為順番制になり仕事している世代では大変。
- ・ コミュニティなど関心がない。
- ・ 地域活動に対するやる気の低下(何に対してもやりたくない)。
- ・ 若い人が積極参加出来る組織作りが必要か。
- ・ 町内会に入会しない人が増えてきている。
- ・ 地区住民の中に他との係りを望まない人が増えていて自治組合に加入していない人が増えている。
- ・ 農業をやっていない人が増え、農業委員・水利委員・土木委員等、委員の選出が難しい。
- ・ 5年後・10年後・20年後のコミュニティを活動させる者への負担が増すばかり。

<町内会・自治会の行事について>

- ・ 敬老会行事を計画しても参加者が少ない。
- ・ 世帯の中で1件1~2人の家庭があり行事への参加が困難です。
- ・ 高齢者の人が多く不参加が多い。
- ・ 高齢で作業に参加できなくなってもいる。
- ・ 地区での作業日に参加できない世帯人数をどこかの土木関係の若い人の雇いができればいいのに。
- ・ 地域行事等への参加等の低下。
- ・ 地区行事を色々と計画又は市の要請の行事参加も数多くあるが人集めに苦慮している。
- ・ 市の主催する行事への参加が困難となっている。(特に団体競技)
- ・ 一昔前は、子供たちも多く、皆で旅行や催しが賑やかに行われていたが、今は行われなくなった。
- ・ あらゆる活動が減退している。
- ・ コミュニティの行事、活動がむつかしい状況になっている。
- ・ 地域の世話が出来る人が減少することにより活動が難しくなっている。
- ・ 高齢化が進み、年中行事の溝堀り、草刈が出来にくくなっている。
- ・ 超高齢化集落となり地区行事が出来にくくなる。
- ・ 年2回の草刈り、溝堀り etc が困難になっている。
- ・ 道路・河川の維持管理が困難。
- ・ 町内の行事には80代の親が出てくる。
- ・ 行事の参加はほとんどが60歳以上の人である。
- ・ 地区内の活動も企画にしても老人と女性が主体であり、マンネリ化の傾向有り。
- ・ 30代~50代の方は仕事が忙しく、地区での活動には積極的にかわろうとしない。
- ・ 老人会主体のコミュニティになってきている。
- ・ 町内会主催行事への若年層や子供の参加がなくなってきている。
- ・ 現在子育て中の一番元気である若者(男性)の参加率が悪い。
- ・ 若年層が多く地区のコミュニティに参加しない。
- ・ 今年も浅口市体育祭(鴨方大会)が行われますが、人を集める事が困難な状況となっています。
- ・ 体育祭そのものを中止する事を検討してください。
- ・ 市民体育祭は、年齢や男女を問わないような参加型のものでやっていただきたい。

- ・コミュニティ行事が多い。
- ・イベント中心から人の心を結ぶ活動の重要性。

<仕事について>

- ・地域の企業(働く者)が少ない為、人口の減少につながっている。
- ・地域に働く処が少なく若い人の定着化が少ない。
- ・耕作放棄地の増加でいずれこの地域は人がいなくなり原野化する。
- ・若者、息子等に農業を教えていない(農業では生活が無理)。
- ・農家もイノシシ等に荒らされ、作る意欲が出ないと思う。
- ・田も小さく効率が悪い為まとめて作る人が居ない。

<コミュニケーションについて>

- ・若年層との意思疎通が必要。
- ・コミュニケーションの取り方が難しくなっている。
- ・地区民が助け合うような仕組みづくりを考えております。
- ・高齢化に対応できる人との結びつきを強くする必要がある。
- ・高齢化となり助け合うにも無理になってくる。
- ・組合員がお互いに話し合う場が少ないので心が通わなくなりつつある(都会化)。
- ・大人ができる子供の指導(勉強以外)が少なくなっている。

<その他>

- ・1才児が1名だけで他に子供がいない。
- ・子供の減少で子供会の成立できなくなる。
- ・地区内で子供の声が聞かれないのは淋しいことです。
- ・子供が少ない。
- ・10年間で新築転入者が多い地区1地区を除いて、他の5地区の新築転入者は1戸だけです。
- ・新しい家が増加しない。
- ・結婚しても都会へ出て行く。
- ・核家族が住み2世帯等の親子のきずながはなれていき、若い世代が都会へと流れていっている。
- ・若い人で独身者が多い。
- ・コミュニティ崩壊の恐れを現実として感じている。
- ・1人暮らしの高齢者の増加、核家族での高齢化。
- ・人口減少、少子高齢化を前提として対応するしかないと思う。
- ・行政の責任を果す、地域に責任を押しつけない。
- ・経済面と安定したと生活。(地区の人で協力し合う)
- ・市街化調整区域の線引きが悪いと思う。
- ・高齢者のみ家族の地域での見守り。
- ・災害時、高齢者が多く避難誘導など難しくなっている。
- ・草刈りボランティアを募集し(30人集まった)きれいにしました。

②今後予想されるコミュニティにおける問題・課題（F A）

○51人（71.8%）から89件の意見がありました。

○『町内会・自治会の行事について』の意見が多く、特に「行事・活動の減少・縮小」「道路・河川等の維持管理が困難」が今後の問題・課題として予想されています。

分類	内容	件数
町内会・自治会の運営について	役員の継続者不足	7
	コミュニティ崩壊の恐れ	7
	特定の人負担が増加	3
	リーダーが不在	1
	計	18
町内会・自治会の行事について	行事・活動の減少・縮小	17
	道路・河川等の維持管理が困難	10
	行事・活動の参加者が少ない	4
	コミュニティとしての活動範囲が限定	1
	若者の参加者の減少	1
	計	33
高齢者について	高齢者のみの世帯の増加	4
	高齢者への支援が困難	5
	生活物資の調達が困難	1
	計	10
地域について	空き家が増加	6
	子どもが減少	3
	若者の定住に向けた取組が必要	2
	その他	6
	計	17
つながりについて	人のつながりの希薄化	3
	世代間の考え方のギャップが広がる	1
	住民の意識改革が必要	1
	行政と地域組織の正しい関係づくりが必要	1
	その他	5
	計	11
合 計		89

<町内会・自治会の運営について>

- ・コミュニティの活動は必要だと思うが後継者が少ない。
- ・地区の役員になり手がなく、満期が来ても次期役員を決めるのに苦労する。
- ・役員のなり手がいない。
- ・役員のなり手がいなくなる
- ・後継者・役員の確保がむづかしい。
- ・役員は言うに及ばず、当番ができないとの世帯が増すものと思われる。
- ・自分のことしか考えられない状況になっている。これが役員をつくりだす困難の原因です。
- ・総合人口の減少によるコミュニティ崩壊の恐れを現実として感じている。
- ・組織そのものの維持も困難となり得る。
- ・将来的には旧納税組合のブロックを合併し組織変更が与儀なくされることでしょう。
- ・今現在でも老・老同士の運営であるのに将来は不安。
- ・当該地区は世帯が現在でも少ないですが、地区への流入される方が今後も見込めない状況です。
- ・数年後の限界集落化、数十年後の部落の消滅の危機がある。
- ・地域共同体が 10 年以内に崩壊する。
- ・活動する人にはすべてがかかってくるので、負担が大きい。
- ・人が少なくなると若い人に皆、負担がかかり、色々の活動が困難になるとと思われる。
- ・いつも特定の人に負担がかかっている。
- ・リーダーが不在。

<町内会・自治会の行事について>

- ・行事の存続が困難。
- ・活動規模の縮小、簡素化を進めていく必要がある。
- ・行事の縮小(回数減)や中断によりコミュニケーション機会減少。
- ・地域の行事がなりたたなくなる。
- ・地域の世話が出来る人が減少することにより活動が難しくなっている。
- ・地区行事(義務工事等)の運営に支障が出る事が予想される。
- ・後期高齢者が 3 割~4 割をしめており、コミュニティ活動に参加する事が難しくなっている。
- ・今後 10 年も過ぎれば高齢者世帯のみとなりコミュニティとしての活動は出来なくなる。
- ・何も活動できなくなる。
- ・伝統行事(氏神様の祭典 etc)の現状通りでの存続についての懸念。
- ・伝統行事の存続が困難。
- ・祭りの千歳楽の古型を守っていますが先細りが目に見えています。
- ・地区内の伝統行事が満足に出来ない不安があります。
- ・部落の行事、祭り事が出来なくなる。
- ・コミュニティと PTA 保護者との行事が少なくなり活動がやりにくい。
- ・コミュニティとして、活動ができなくなる。(地域の環境・維持が難しくなる)
- ・高齢化によりコミュニティ活動が満足にできなくなる。(溝清掃、道路愛護等)
- ・道路・河川の維持管理が現在はなんとか出来ているが、困難となるのは予想される。
- ・道路、河川等の維持管理(草刈り等)が困難。

- ・道路・河川の維持管理が困難。範囲が広く、転入者は草刈り機を持たない。
- ・高齢化の為、草刈などの対応が今後、厳しくなる。
- ・草等の処分場までの運搬もままならなくなる。
- ・道路の維持管理、溝掘などの行事が、今後 10 年もすれば困難となる。
- ・近い将来、道路、河川の整備は地区単独では出来なくなる。
- ・進み草刈り等の活動できなくなる危惧が考えられる。
- ・人手が必要な行事(草刈り、集会所のそうじ)など参加できる人が少ない。
- ・愛護デーに高齢で出られないので、組合を脱退する人もいる現状。
- ・町内行事への参加減少。
- ・サロン等有志の活動も困難になっている。
- ・コミュニティとしての活動範囲が限定されること。(動ける人がいなくなる)。
- ・各種の行事は老人クラブ等の高齢者が中心となり、若い世代の参加がさらに減少する。

<高齢者について>

- ・高齢者のみの世帯の増加。
- ・老々介護となる。
- ・後継者のいない家庭が多く先が心配。
- ・高齢者が多くなり、自分のみの活動となり孤立化が進む。
- ・高齢者への支援が難しくなるおそれが考えられる。
- ・高齢者の見守り。
- ・移動手段が少なく生活物資の調達すら不自由となる。

<地域について>

- ・空き家の増加→治安が悪くなる。
- ・空き家が増加傾向。
- ・空き家が増える。
- ・空き家の増加懸念。
- ・空き家がどんどん増えると不用心になりそうです。
- ・空き家が大多数で、これから住んでみようといった家はなく、倒壊しそうな状態です。
- ・子供達の遊ぶ声が少なくなり、静閑すぎて暗くなる。
- ・子供が減少すると、その少ない子供が(若い親)さらに子供の多い地域外へ移住します。
- ・学校が遠いのもあるが子供が居ない事が問題。
- ・若い人達を取り込んで定住してもらう事が必要かと思います。
- ・若者が定住できるような施策。
- ・田畑が荒れて耕作作業が増える。
- ・小学校も廃校になり過疎地区になる。
- ・人口減少、少子高齢化を前提として対応するしかないと思う。
- ・自動車の駐車する処がないので、スペースを確保できるところへ居住を移動する。
- ・車両が進入できないところが多く、若者は中新開等に移り住み、老人だけの家庭が多い。
- ・金光町地区の規制が多い。

<つながりについて>

- 人と人との連携が希薄になる危惧が考えられる。
- 地域としての交流が少なくなる。結果として緊急時(災害等)への対応が充分でなくなる。
- 地域内の交流、近所づきあいの減少。
- 若年層の考え方が周囲との協調性に欠ける。
- 住民の意識改革が必要と思われる。
- 行政と地域組織が正しい関係をつくること。
- 真剣に話し合う場が少ない。
- 地区民が助け合うような仕組みづくりを考えております。
- 近所づきあいが必要。
- 別途コミュニティ代表者ではない方々の意見を聞いてはどうでしょうか。
- 人口減少、少子高齢化によるデメリットをもっと多くの人にPRする。

③現在取り組んでいる、また今後取り組みたい活動（F A）

○46人（64.8%）から97件の意見がありました。

○『イベントの開催』についての意見が多く、特に「防災組織・避難訓練等の活動」「祭りへの参加（交流促進・伝統継承）」が上がっています。また、『交流の促進』の「ふれあいいきいきサロン」も多くなっています。

分類	内容	件数
組織の発足・強化	地区社協(社協管轄)の発足・強化	2
	地区を考える会の発足(有志)	1
	地区の規約を勉強する機会づくり	1
	その他	5
	計	9
イベントの開催	防災組織・避難訓練等の活動	10
	祭りへの参加(交流促進・伝統継承)	8
	親睦会、敬老会	6
	グラウンドゴルフ大会	6
	その他	19
	計	49
環境への取組	里山づくりの取組	2
	町内会で環境美化の日を設定	1
	コミュニティ花壇の整備	1
	計	4
情報の発信	毎月「自治会報」を発行	2
	電子化(ホームページ他)の推進	1
	他の地域との意見交換会	1
	参加者募集広告の工夫	1
	計	5
交流の促進	ふれあいいきいきサロン	10
	世代間の交流の推進(若者の参加促進)	4
	挨拶・声掛けの推進	4
	団体(町内会・老人会・子ども会等)の連携	3
	その他	4
	計	25
その他	現時点では考えていない	2
	高齢化、子供不足で手が打てない	1
	現状維持	1
	同好会活動へ補助金	1
	計	5
合 計		97

<組織の発足・強化>

- 地区社協(社協管轄)を発足させ、サロン開催など。
- 地区社協を強化。
- 地区を考える会の発足。(有志)
- 八重地区の規約を勉強する機会をもちたい。
- 連絡をこまめにとって、普段から気軽に声をかけられる関係を維持しています。
- 役員も不公平にならないように早くから順番を決めて心の準備をお願いしています。
- 趣味の会など、少人数でも継続して人が集まる団体を作る方向でも動いています。
- 見守りの推進。
- 地区活性化委員会の実施。

<イベントの開催>

- 派手な避難訓練ではなく、役員が自分の役割を認識するための勉強会を行っています。
- 災害時の避難場所、安否確認等の取り決め。
- 地域防災への組織づくり。(規約、連絡網、役割分担他)
- 避難訓練。
- 自主防災等の共通の目的を共有した訓練等を定期的の実施し、各個人の連携を強化したい。
- 地区防災会を発足させ、災害への対応の勉強会や避難訓練等により、住民相互の協力を推進。
- 取り組みたい活動は防災組織をつくること。
- 自主防災訓練。(9月26日)
- 災害対策等の検討と実施。
- 地区防災組織の組成。
- 祭りについては、地区内出身者・親族・知人・友人1人でも多く参加してもらおう。
- 夏祭り、秋祭りでの交流。
- 千歳楽の修理も行い楽しい山車で祭りを盛り上げ部落全体で秋祭りを楽しみたい。
- 町内会としての伝統行事(神様のお祭りを皆で大切に守っています。(神社の祭り)
- 夏祭り。
- 夏祭り。(7月18日)
- 地区夏祭り。
- 秋祭りでの千歳楽の遂行。
- 敬老会・新年会等2ヶ月に1度以上集まり、コミュニケーションをはかっている。
- 親睦会、敬老会を今年秋に、親睦を深めようと計画しています。
- 敬老会においては、地区民総出でお祝いする意味を込めて、地区内最大イベントと位置づけ。
- 敬老会。
- 敬老会。(9月20日予定)、懇親会。(3月22日)
- グラウンドゴルフ大会。(10月)
- 地区全体の交流の場を設定。(G・G大会)
- グラウンドゴルフ大会に今後多くの人に参加する方法を考えたい。
- 老人の活動。(グラウンドゴルフ等のサークル活動)
- 三世代ふれあいグラウンドゴルフ。

- 草刈・溝堀。
- 総会を行い「末広地区計画表」を作成・配布。
- 現在は唯一町内運動会で子供から老人が取り組めるゲームを実施して参加を維持してゆきたい。
- 地区内の公園で毎年4月に花見を実施し、子供から高齢者が楽しんでいる。
- お花見会。(4月)
- しめ縄作り講習会(12月)等。
- 料理教室、実行中。
- 春の親睦旅行。(コミュニケーション良化)
- 歩こう会。
- 秋の体育祭行事に参加。
- 私の町内会は老人会に多くの方が加入して旅行などで楽しんでいます。
- 特に12月はクリスマス会。
- 夏休みラジオ体操(7/21~7/31)・・・老人クラブ中心。
- 老人会を中心とした研修旅行。
- 地区全戸を対象とした新年互礼会。
- カラオケ同好会をつくり、月2回集まり(20~25人参加)親睦を深めている。
- 「盆踊りと夏祭りの夕べ」を実施したところ、内容が充実していたのか200名以上の参加。
- 年末に餅つき大会を実施。
- 年数回「ふれあい会」を開催しているが参加者が固定、また受動的で活気に乏しい。

<環境への取組>

- 「末広地区森林保存会」を立ち上げ、里山づくりに取り組んでおります。
- 里山づくりと云う気運が出て来ましたので前向きに取り組んでやりたいと思います。
- 町内会で住環境整備(環境美化等)の日を設け、ボランティアで住み良い町づくりに努めています。
- コミュニティ花壇の整備。(年間通じ)

<情報の発信>

- 町内活動を「末広ニュース」として毎月1回発行、配布しています。
- 毎月「自治会報」を発行し、情報の共有化を図っている。
- 情報の共有化を進める為の電子化(ホームページ他)を進めたい。
- 同様に祭り存続に苦勞している地区(真鍋島走り神輿保存会)との意見交換。
- 募集のポスターづくりから軽い調子にし、参加者を募り、公会堂のペンキ塗りを実施。

<交流の促進>

- サロンでの交流。
- ふれあいいいききサロン年3~4回行っている。
- ふれあいいいききサロン。(年数回)
- 生き生きサロン。(月1回)
- (ふれあいいいききサロン)の後継者育成。
- ふれあいサロンで子供との交流。(8月)

- ふれあいサロンでおしゃべり喫茶、毎月第4土曜日。
- いきいきサロン。
- サロン(民生委員、福祉委員)を通じて声をかけあい行事に参加してもらう様考えている。
- ふれあいサロンの実施。
- 子ども会の行事に地区民が積極的に参加し地区の行事に子どもや若年層の参加を促したい。
- 子供から高齢者まで気軽に参加出来、コミュニケーションが図れる様なものを考えたい。
- 高齢者と若年層(こどもを含む)を融合していく方策を地区コミュニティ全員で検討したい。
- 子供達とその親を主体とした農業体験(育てる楽しみ)と収穫祭。
- 気持ちの良い挨拶は掛け合っていきたい。
- 「挨拶」「声掛け」「困っていることがあれば相談」をモットーに老若男女を問わず接する。
- 近所の人同士の声かけ(あいさつを含めて)が重要。
- 子供会とのコラボ。
- 区の行事に対して老人クラブ、消防団、PTA等の各役員と連携して行っている。
- 町内会・老人会・子供会の取り組みを強化し、お互いの協力を推進。
- 戦争体験を聞く会。(8月8日)
- 行事の時は、帰省し参加することを大歓迎と言って呼びかけています。

<その他>

- 取り組むことは考えていない。
- 現時点で取り組んでいる活動はないが、前向きに検討していきたい意向は持っている。
- あまりに高齢化、子供不足で手が打てない。
- 既存行事の継続、存続、中心に取り組む。
- 同好会活動へ補助金を出している。

④コミュニティを活性化するために、浅口市へ望むこと（F A）

○45人（63.4%）から51件の意見がありました。

○『コミュニティへの直接的な支援』についての意見が多く、特に「地区交付金（補助金）の増額」「集会所の建設・整備への助成」が上がっています。また、『住民ニーズの把握』の「相談窓口の整備と意見の適切な検証」も多くなっています。

分類	内容	件数
コミュニティへの直接的な支援	地区交付金（補助金）の増額	4
	集会所の建設・整備への助成	3
	コミュニティ活性化施策・行事の選別	2
	防災等に関わる個人情報の提供	1
	専門性の高い地域施設管理	1
	その他	6
	計	17
行政手続き	休日対応窓口の設置	1
	事務手続きの簡略化	1
	補助金利用の簡易化	1
	住民登録の際に町内会を案内	1
	計	4
情報の提供	市内各地区の交流会実施（情報交換等）	3
	コミュニティ活動の勉強会の開催	2
	他市町村の成功事例情報の提供	1
	行政による積極的指導	1
	計	7
住民ニーズの把握	相談窓口の整備と意見の適切な検証	4
	市職員の高齢者世帯への訪問・聞き取り	1
	コミュニティ参加促進アンケートの実施	1
	計	6
その他	耕作放棄地対策	3
	人が住める・住みやすい環境の整備	3
	空き家対策・有効利用	2
	地域・地区単位、区制の見直し	2
	その他	17
	計	17
合 計		51

<コミュニティへの直接的な支援>

- ゆとりあるコミュニケーション活動が出来る様助成金を上げて下さい。
- 交付金の増額を市の各種委員公募にできるものからすること。地域に必要な役は地域で作ります。
- コミュニティ活性化のための補助金の増額。
- コミュニティ活動に対して、支援、補助金の充実。
- 地区集会所(公民館)等への施設整備(冷暖房器具設置等)における補助金交付を再検討願いたい。
- 公会堂の補修、建替え等(みんなが集まりたくなる環境を)。
- 大字単位ぐらいにコミュニティハウス(集会所)を建設して欲しい。(例:みどりヶ丘団地)
- 方策を講じ、活動を広げすぎると地区がより苦しくなる。行事を減らすことも検討してほしい。
- 惰性で続けるのではなく、負担になっている地域があることを考慮して、行事を取捨選択。
- 個人情報に対し行政は非協力的。
- 地域の土木委員が管理している四つの水門とポンプ場を市に管理してほしい。
- 市道・県道ののり面は傾斜がきつく草刈は危険を伴う。業者に委託して草刈をしてほしい。
- 種々の教育の為、機器材が必要となり貸し出し体制等考えて欲しい。
- 市がもっと地域に密着して協力して頂かないとなげかけるだけでは、無理になると思われます。
- 最低でも今の予算を確保してください。

<行政手続き>

- 市役所に用事を済ませに行くことが難しい、休日も対応してほしい。
- 事務手続きを簡略にしてほしい。
- 様々な補助金も本当に使い易いものにすべきではないのか。
- 住民登録の際に町内会の加入を案内してほしい。

<情報の提供>

- 市内各地区の交流会を年 1 回実施。活動の報告と困難な問題を出し合い高め合う。
- 行政関連部署主催のコミュニティの関係の会合等につき開催日時を検討する必要がある。
- 地区コミュニティ間の交流を図っていく必要を感じる。
- コミュニティ活動の勉強会の開催を希望します。
- 市が積極的な勉強会、それぞれの地域会等の交流会等を指導してもらいたい。
- 他市町村での取り組み成功例を情報提供してほしい。
- 手本を見せ積極的に指導してほしいものです。

<住民ニーズの把握>

- 草刈りやお祭りのしめなわ等町内会だけでは対応できない、気軽な相談窓口を整備してほしい。
- 相談に乗ってもらい、アドバイスがほしい。
- 住民の言っている事を聞く事ではないでしょうか。(必要なものが提供されないことがある)
- 小さなことでも聞く耳を持ってほしい。
- 浅口市の職員もしくは担当が高齢者世帯を訪問し、真の課題を聞きとる方がよいのでは。
- コミュニティに参加する人が決まっている。全員参加するには等々のアンケート調査。

<その他>

- 耕作放棄地対策。
- 今後増加必至の耕作放棄地対策。(鳥獣被害への対策も含む)
- 耕作放棄地の有効利用もしたい。
- 人が住める住みやすい環境の整備が望まれる。
- 地域活動(清掃等)だけでなく、行政として環境作りを積極的に取り組んで欲しい。
- 空き家対策。
- 空き家の有効利用も念頭にあります。
- 線引きの見直しを主に地域環境の整備。
- 地域・地区を考え直す、コミュニティを地域単位で、地区を町内会単位と考えるとよいのでは。
- 金光町は区制がありますが他の町の区制が無いようです。統一してもらいたい。
- 活性化は50代60代の女性の力で行うというPRをしたらいい。
- 高校生が安心して高校生活が送れる様、交通の利便性の向上が必要です。
- 小学生の通学手段の確保、保育環境整備が最優先。
- 防災に対して安心して暮らせる様に弱点は一つずつ減らして下さい。
- 行政は何事も部落をあてにしているのではなく、出来るだけ部落の負担を少なくしてください。
- コミュニティ運営と地区社協活動が重複していないか見直しを試みたら。
- 低給料であっても安心して暮らせること(生きているため)。
- 安定した給料であること(経済的)。
- 市民の結婚を、自分の子供のこととして考えてほしい。
- 墓地墓所の分譲を行ってほしい。
- 他の市町村で実施している施策を積極的にまねしてでもよいので取り入れるのがよい。
- 独身者を減少するため、結婚への足がかりを作っていただきたい。
- 工業用地を早期に完成させて地元の採用を期待します。
- 先行的に投資し、企業誘致、住宅建設などを積極的に推進する必要がある。
- 傾斜生産の手法を採用すべきである。
- 強烈的なリーダーシップで施策を推進してほしい。
- 高齢者向け遊具の設置を各地域(町内会)の公園に。

3. 子育て支援・定住促進について

①コミュニティで行っている、子育て支援・定住促進のサポート等（FA）

○24人（33.8%）から36件の意見がありました。

○「学童の登下校の見守り・送り迎え」「地区の子ども会(小学校)への経済的支援を含めた援助」「祭り、敬老会、ふれあいサロン等に子どもが参加できる運営」といったサポートを実施している地域コミュニティが多くなっています。

内容	件数
学童の登下校の見守り・送り迎え	6
地区の子ども会(小学校)への経済的支援を含めた援助	6
祭り、敬老会、ふれあいサロン等に子どもが参加できる運営	6
イベントの開催(モチつき大会、そうめん流し、グランドゴルフ)	4
PTAの行事への支援	1
地区の保護者による会合実施	1
愛育委員の活動	1
子どもへの挨拶、声掛け	1
遊園地の清掃、草刈り等	1
下水道の設置	1
実施していない・できない	3
その他	5
合 計	36

<子育て支援>

- ・ミルミルウォークとして、毎日学童の登下校の見守り・送り迎えの取組を実施。
- ・竹小学校の登下校の見守りを6名でやっています。
- ・学童通学路の交差点での交通見守りをやっている。
- ・小学校の帰途通学の見廻り隊に協力しています。
- ・小中学生の登下校時の見守り、地域周辺での子供の動行に注意し、挨拶、声掛けを行っている。
- ・学童の登校、下校の見守り。
- ・地区として毎年子供会(小学校)に育成費を数万円出しています。
- ・子供会へ自治組合から経済的な支援をしているが子供活動は減少。
- ・子供育生会への援助(補助金)。
- ・地区子供会への補助金。
- ・子供会の活動には、理解と全面的な協力をしています。
- ・夏休み冬休み等を利用してコミュニティーハウスで子供を集めて行事をしています。
- ・敬老会行事に、地域内の方であれば、全員に参加を呼びかけています。
- ・サロンのおしゃべり喫茶で子供と交流をしている。
- ・祭りや敬老会、ふれあいサロンに子供会の参加ができる運営をしています。
- ・コミュニティ活動の一貫として子供会が参加するようにしています。
- ・老人クラブと子供会の共済行事。(折紙教室・餅つき)
- ・モチつき大会の開催。(老人と子供)
- ・そうめん流し。(3世代)
- ・グランドゴルフ。(3世代)
- ・お祭り。(各種団体によるもちつき、子供、大人の演奏会、青年部、父兄による夜店など)
- ・PTAにおける行事に対して極力応援できることは協力している。
- ・八重地区では子供の育て方について、ほぼ全員の保護者参加で話し合いがされています。
- ・遊園地の清掃、草刈り等。
- ・下水道を設置し、その促進に努めている。
- ・誰が定住しようとしているか知らないのでサポートのしようがない。
- ・特に出来ていない。
- ・現在特にありませんが、常に受け入れの体制(まだ、気持ちだけ)を整えたいと考えています。
- ・結婚するのがまず先手。(子供が激減)
- ・企業誘致が何よりも必要でないかと思われる。
- ・子育てをしやすくするために第何子以上の子に市として支援金を出すことが挙げられる。
- ・子供会への支援や子供会活動の方法等を積極的にサポートしてほしい。
- ・各所に子供の遊び場所を作る。
- ・保育所を多く作る。

②移住者に対する期待と不安（F A）

○44人（62.0%）から69件の意見がありました。

○『期待』としては「地域の活性化につながる」「地域に新しい文化・発想が生まれる」といった意見が多くなっています。一方で、『不安』として「相互の歩み寄り・理解ができるか」「近所付き合いを拒むのではないか」といった意見がみられます。なお、期待や不安の有無に係らず、「町内会として受け入れたい」という意見も多くなっています。

分類	内容	件数
期待	地域の活性化につながる	9
	地域に新しい文化・発想が生まれる	4
	地域の行事・活動への参加	3
	空き家の解消	3
	人口の増加	3
	若者の増加	3
	小学生以下の子どもの増加	2
	耕作放棄地の減少	2
	地域の閉鎖性が変化する	1
	3世代同居の増加	1
	計	31
	不安	相互の歩み寄り・理解ができるか
近所付き合いを拒むのではないか		4
治安・マナーの悪化		3
各種行事へ参加してくれるか		3
地区・町内会に入ってくれるか		3
移住者に積極的に関与できない		1
地区・町内会に入らない場合の緊急時対応への支障		1
方言等の文化の違い		1
自立していない住民の増加		1
素性のわからない人間の増加		1
計		26
その他		町内会として受け入れたい
	地域の環境から移住は望めない	1
	期待も不安もない	1
	問題は想定されるが考えても仕方ない	1
	その他	1
計	12	
合 計		69

<期待>

○地域の活性化につながる。

- ・移住者が来られる事は地域の活性化につながり良いことだと思います。
- ・定年で地元に戻ってくる人は親の世話を考えているので家族・地区にとって大変嬉しい。
- ・移住を多く入れて活性化することを望みます。
- ・地域にとけこんで活性化していただきたい。
- ・若い人達が増えれば幅広い繋がりができ、地域に根を張る人が増えれば活性化に繋がる。
- ・若年層が移住、定住してくれれば、地域活性化につながることは充分期待できる。
- ・新しい考え方等によるコミュニティ活動の活性化に期待。
- ・地区が活性化するような人が来て欲しい。
- ・異文化地域の交流がはかれて良いのではないか。
- ・新しい文化。
- ・特に若い人が入ってくれば、それだけ新しい発想が増え期待できる。
- ・都市等の良い習慣やコミュニティ活動を広めて頂ければ大変有り難いことだと思います。
- ・積極的に行事に参加してほしい。
- ・若い方が入り地区の行事に参加してくれれば良いと思う。
- ・新しい感覚で将来のサポーターとして活躍してほしい。
- ・空き家対策として移住者が入ってくるとありがたい。
- ・空き家の草や防犯を考えると移住は歓迎する。
- ・移住者が入ってくる事に期待する。
- ・住民が増えることは喜ばしい。
- ・人口が増加する。
- ・若手が増えてほしい。
- ・若い人達からの高齢者への支援を期待したい。
- ・若い移住者であれば子供も望める為域内活性化につながる。
- ・特に小学生以下の子供が転入してくれれば大変嬉しい。
- ・耕作放棄地の減少。
- ・耕作放棄地を有効に活用し、宅地変更等すみやかに対応願う。
- ・地域としては閉鎖的な考えがあるが、移住者が多くなると変化すると思う。
- ・2世帯3世帯が出来る事を期待している。

<不安>

- ・移住することは本人・住民相互にとって不安。地区の行事などを通して歩み寄ることが大切。
- ・言葉だけで通じ合うか不安である。(精神面)
- ・地区と協力し合って生活できるよう努力する真心があるか。
- ・移住者は田舎での生活の不便さを十分に理解し、住民はよそ者扱いしないことが必要。
- ・受け入れる方、来る方の人間関係がうまくいか。
- ・元の住民と入ってきた人が、いかにつながっていけるが課題、双方の努力と協調精神が必要。
- ・都会と農村との生活習慣の差によってその地域に溶け込めるか。
- ・近所づきあいをしたがるのではないのではと不安である。

- 地域へ馴染んでもらえるか。
- 所になじまない。
- 周りに溶け込もうとしない面も有る。
- 治安が悪くならないか。
- マナー違反等が増える事が考えられる。
- 治安。
- 各種行事の参加が行えるかが問題。
- 地区の行事やルールを蔑ろにする人だと地区内で問題が起きないか不安。
- 地区年間行事に対して不参加。
- 町内会未加入にならないようアドバイスも必要。
- 地域コミュニティ会員となり地域になじんでくれるかどうか。
- 移住者のお年寄り、町内会へ加入したい、若い者は入会したくないと言っていた。
- 移住者に対して地域の旧住民から積極的に関与できていない。
- 非地区会員との交流がなく(情報が掴めず)緊急時等の連絡に支障をきたすことが心配される。
- 移住者について都市部の人に方言の説明等が必要かも。
- きちんと納税して自立している方であれば問題はない。
- 団地等ができて見ず知らずの人が入ってくるのも不安があります。

<その他>

- おおいに歓迎したい。
- 町内会に入会しようとするれば、初期の入会金や会費、年間の行事、神社の氏子など説明します。
- 具体的に移住者が入ってき時は、町内会として受け入れできるように勧めたい。
- しっかりとサポートする気持ちは持っている。
- 地域に馴染んでくれる方であれば何ら拒むことはないと思う。
- 大いに歓迎する。
- 山間部では都市からの移住はありえない。
- 期待も不安もありません。
- 不安なことを想定しても仕方がないのではと思われる。
- 交通インフラ、宅地等が整ってない状態では期待や不安以前の問題と思う。